

校長室だより

共学共高

第
88
号

令和7年10月6日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

二学期の授業～その5

10月に入り、だいぶ秋らしくなってきたと感じる今日この頃である。

10月3日（金）の2時限目に、2年1組の「英語コミュニケーションⅡ」の授業を参観してきた。授業者は、T先生である。私は授業開始の5分前に教室に入ったが、T先生はすでに待機して生徒と会話をしている。電子ボードに映し出す教材の用意なども終わっているようだ。私は、顔見知りのEさんとMさんと雑談をして過ごす。Eさんからはディズニールランドのお土産（ワッフルクッキー）をいただいた。ありがとう。（校長室だよりを書くことかと思われる方もいるかもしれないが、これがありのままの現実である）

チャイムと共にあいさつを交わして授業が始まる。先生は英語で生徒たちに語り掛け、指名して英語で答えさせる。例えば、「今日は何月何日？」と投げかけ、生徒は「October 3rd」と答える。「欠席者の確認」も英語だ。ハンドボール部の二人が国民スポーツ大会のため公欠となっている。ちなみに、欠席している（形容詞）は「absent」である。

教科書の本文が電子ボードに映し出され、ネイティブの音声流れる。本時で扱う内容の全体把握である。新紙幣に関わる登場人物として、津田梅子と渋沢栄一が扱われている。津田梅子が創設した津田塾大学は本校のすぐ近くにあり、本校と高大連携協定も締結している。津田梅子が6歳で渡米し、11年間で過ごした後、帰国して女子教育や就職の機会がほとんどないことに驚き、日本で初めての女子教育を担う学校を創ったとの内容である。同様に、渋沢栄一も渡欧後に帰国してから、日本で初めての銀行をつくり、何百もの一流企業をつくる手助けをした、日本における資本主義の創始者であることが述べられている。

次に、本文を一文ずつ確認していく。予習が前提となっているので、先生はポイントを押さえて、生徒たちに質問をしながらテンポよく授業が進んでいく。「『be known as～』は～として知られている」ですね。では、「pioneer」は？「female」は？「education」は？と次々に投げかけられ、指名された生徒がすぐさま答えていくのだ。一文ごとの和訳の確認も指名される。次の段落でも、「at the age of～」「be selected」「eleven years later」「opportunity」「few」「feltは何の過去形？」などについても、生徒が指名され、先生とのやりとりが頻繁に行われる。「She felt it necessary to improve their social status.」という一文は文型としてS+V+O+C+真Oであることが示された後、和訳をする生徒が指名される。私は status

の発音を「ステイタス」だと思っていたが、教科書はアメリカ英語を使っており、「スタータス」と発音するようだ。



途中で、宿題となっていた教科書の問題（英文の日本語訳、本文の内容に関する正誤問題、本文の内容をコンパクトにまとめた表内の空所補充など）について、その都度、ペアでの確認が行われる。その後、指名された生徒が解答を言っていく。「1900 年」は英語で「nineteen hundred」と発音することも確認された。また、「welfare」の意味は数名の生徒が確認されていた。いずれの生徒も「公共」と答えていた。重要単語と理解しよう。このようにして本文の内容理解などが進められていく。

一通り本文の内容が確認されると、単語の確認である。電子ボードに英単語、発音記号が映し出され、生徒たちが声をそろえて発音する、その後に日本語の意味が映し出される。これを複数の単語について行うのだ。

最後に宿題の指示が出されて、時間通りに授業が終了する。T 先生は関西弁を織り交ぜながら、バイタリティ溢れるやりとりを生徒たちと行う。授業に相当のエネルギーが使われるのではないだろうか。指名した生徒の英文和訳がスムーズにいかないと感じたときには、すぐさまペアワークを導入して、到達させたいところへもっていく。生徒たちも頻繁にペアワークがあるし、表現を求められるので、気を抜くこともできない様子である。

若い時の学びは、いろいろな意味で将来につながっていくことでしょう。私のように、歳をとってから海外大学（MIT）の先生の英語での講義に参加して、ひやひやするようなことのないようにね。

（共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す）